

関連項目：教育活動プラン④

## 集団とのかかわりによって存在感を持つ

### 目的

本校の児童は、全体的に素直でやさしく、おおらかな気持ちを持った児童が多いが、反面おとなしく自己主張が十分にできない児童もいる。そこで、体育活動等で異学年との縦割り活動の場を設定し、年齢の異なった児童相互の交流を通して、個の活動と集団の活動が互いに影響を与えるような交流をさせ、よりよい仲間作りができる社会性を育成したい。

### 内容

#### ●「なかよしの日」の取り組み

異学年との交流を深め、お互いの相互理解を深めるために、月1回昼休みに交流の場を設けている。1年間を通じてどの学年ともペアになる機会を作り、上の学年が中心になりゲーム内容を考えている。学級会でどんなゲームをしたらよいか話し合っ内容を決め児童の司会進行でゲームを進めている。

7月には全校生で七夕集会をし、願いごとを発表したり飾り付けをしたりして、季節の行事を楽しむ活動も取り入れた。



#### ●縦割りグループで8の字大縄跳びに挑戦

毎週金曜日の昼休みに、全学年を12グループに分け8の字大縄跳びを行っている。3分間に跳べる回数を調べ、色別競争をしてきた。100回を超えるチームがたくさん出てきて、回を重ねるごとに回数が伸びてきている。2月の最終回には、10グループが100回以上跳ぶことができた。はじめは跳ぶのを怖がっていた1年生だが、上級生から応援してもらったり跳ぶコツを教えてもらったりして上達している。

運動会の種目の中にも組み込まれていてチームの結束作りにも役立っている。



#### ●1年生歓迎遠足

体育館で1年生とゲームをしてふれあった後、縦割りのチームで近くの運動公園横のサッカー場へ遠足に行った。行く途中、学校内でチームごとにウオークラリークイズを行った。学校で飼育しているウサギや100年生きてきたユカリの木等を1年生に紹介し、学校を知ってもらった。サッカー場では各班でお弁当を食べたり、きめてあった遊びをしたりして、チームの絆を深めることができた。



### 成果

縦割りグループでは、高学年の児童がリーダーシップを発揮し、集団の中で自分は何をすべきか考えて行動できるようになっている。班の仲間同士が声を掛け合い協力している姿も見られた。集団活動をする時、一人ひとりに役割を受け持たせ活動することによって、自己意識が高まり集団の中で自分を見つめ、他人と比べて集団にかかわっていかこうとする力を伸ばしていると思う。